

1 部

学習サポート

各種申込締切について

『試験・スクーリング情報ブック』にてご確認ください。

- ・ 学年暦→2018年度版・2019年度版 p. 4～5
- ・ 通信教育部カレンダー
→ (3月) 2018年度版 p. 28～29 (4、5月) 2019年度版 p. 6～9
- ・ 演習・実習科目関連締切等
(社福) → 2018年度版 p. 47～50 2019年度版 p. 46～49
(精保) → 2018年度版 p. 51～53 2019年度版 p. 50～52

2019年4月以降の変更・留意点

●2018年度以前入学の方は、『試験・スクーリング情報ブック2019』 p. 30～44で必ずご確認ください。

【主な変更 (既報)】

- ・ 「別レポート」(スクーリング受講者向け) が、「客観式レポート」(スクーリング受講を問わず提出可能) に変更 (詳細は『レポート課題集A 2019』 p. 14～15参照)。
- ・ オンデマンド・スクーリングの第2次申込みの廃止。

ご卒業おめでとうございます

通信教育部長・教授 寺下 明

晴れて東北福祉大学通信教育部を卒業される皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんの多くは、仕事を持ちながら、あるいは、家庭で子育てや家族の介護をしながら、通信教育の課程で学ばれたのではないのでしょうか。テキストを読み、レポートを書き、オンデマンドやスクーリングに励まれたことでしょう。卒業するのは、並大抵ではなかったことと思います。皆さんの強い意志と、これまでの努力に心より敬意を表します。また、皆さんを温かく支えてこられたご家族やご友人、職場の方々に対し、心より御礼申し上げます。

卒業の卒は、学業を卒えるということです。一つの節目、区切りを終えるという意味があります。しかし、英語でいう卒業（commence）は、新たな出発という意味があります。一つの終わりは、また新たな始まりでもあることを示唆しているようです。社会の変化が激しく先行き不透明な時代、皆さんは、これからも家庭や職場で、さまざまな問題や試練に直面することでしょう。課題先進国といわれるわが国においては、解決に向けて取り組むべき課題が山積しています。

東北福祉大学は、仏教の教えである「行学一如」を建学の精神としています。「行学一如」とは、実践や行動としての「行」と学問研究である「学」とは一体であるという意味であり、その融合をめざす言葉として用いられてきました。学んだ知識や理論は、経験や実践においてつねに検証され、修正され、より確かなものとなっていきます。このような建学の精神のもと、本学では、理論と実践をバランスよく身につけた人材を育成することをミッションとしてきました。

「行学一如」の建学の精神のもと、本学は教育の理念として「自利利他

円満」を掲げてきました。自己の利益と他者の利益が一致して、世界が円満になるという「ともいき（共生）」の思想です。生きるという個々の営みと、共にという他者を意識した精神は、原理的に対立するものではないはずです。めざすところは、個々人がそれぞれ持てる力を出し合い、互いに支え合いながら「自利利他円満」な社会を実現することにあります。

世界が狭くなった今日、自分ファースト（勝手）だけでやっても限界があり、上手いきません。今や人々の価値観や生き方の多様性が広がり、単純に答えがでないものばかりです。それでも、私たちは未来に向けて、新しい見方・考え方や答えを探し出さなければなりません。そのような時、立場や考え方が異なる相手とのコミュニケーションが必要です。ディベートや討論という相手を打ち負かす能力ではなく、真理や知恵を分かち合う対話（dialogueの語源）の能力が求められています。

私たちは、とりわけ、東日本大震災を経験して、「共に生きる」という言葉の大切さを痛感しています。日本人の助け合い、共に生きる姿が広く世界に報じられ、高く評価されました。「世界全体が幸福にならないうちは個人の幸福はありえない」とは、宮沢賢治の言葉です。現代社会では、文化や宗教の違いを超え、国境を越えた人々との「共生」、また、自然や生態系を含む環境との「共生」が重要になります。「自利利他円満」の精神は、困難な問題を解決するための基準だと思います。

変化し続ける社会にあっては、何が正しく、何がそうでないのかを見極めることは大変難しく、時には自己を見失いかけることもあるかもしれません。しかし、卒業される皆さんが通信教育の課程で学びとった成果は、今後の人生を生き抜くうえで大きな財産となるはずで、どうぞ本学の「行学一如」と「自利利他円満」の哲学を忘れないでほしいと思います。通信教育部では、皆さんを誇りに思い、これからさまざまな立場で活躍されることを応援しています。